

# 門川町教育研究所

I	研究主題	14-1
II	主題設定の理由	14-1
III	研究目標	14-2
IV	研究仮説	14-2
V	研究構想	14-2
1	研究方法	14-2
2	研究計画	14-2
3	研究全体構想	14-3
VI	研究組織	14-3
VII	研究内容	14-4
1	キャリア教育の視点からの実態の見直し	14-4
(1)	定量的な実態把握	14-4
(2)	定性的な実態把握	14-4
(3)	児童生徒の実態	14-4
2	地域の実態に応じたキャリア教育の創造	14-4
(1)	目指す児童生徒像	14-4
(2)	キャリア教育の名称	14-5
(3)	キャリア教育のキーワード	14-5
(4)	学年別目標	14-5
(5)	基礎的・汎用的能力の育成	14-5
(6)	キャリア教育の実態調査	14-6
(7)	全体計画の作成	14-6
3	授業研究・実践	14-7
(1)	「かどがわ黒潮学習」を要とするキャリア教育の構想	14-7
(2)	キャリア教育の視点を生かす工夫	14-7
(3)	指導案の作成	14-7
(4)	ふるさと教育を要とするキャリア教育の実践	14-8
(5)	防災教育を要とするキャリア教育の実践	14-9
VIII	成果と課題	14-10
○	参考文献	
○	研究同人	

## I 研究主題

### 自ら考え、判断し、主体的に行動する児童生徒の育成 ～命を守り、育てる“かどがわ黒潮学習”の充実・発展～

## II 主題設定の理由

### ○ 今日の課題から

学校教育の大きな課題の一つが、東日本大震災後の「防災教育」である。南海トラフ巨大地震に備え、ハード面の防災対策とともに、ソフト面の「防災教育」の重要性が指摘され、児童生徒に「生き抜く力」を育てることが課題となっている。また、これとともに、自らの命を守り、地域やふるさとの安全や被災後の復興に貢献するために、ふるさとに誇りをもち、ふるさとを愛する心を育てることが大切であるという意識が高まり、「ふるさと教育」の重要性が一層認識されるようになった。さらに、近年若者の進路選択をめぐる社会問題が顕著になっている。そのために、学校教育の中で、地域の未来と自分の将来を結びつけ、生き方を考えることができる児童生徒の育成が求められている。学校を取り巻くこのような諸課題に対応するためには、個々の問題に対処する教育活動を個別に行うのではなく、「地域」に目を向けながら、「防災教育」「ふるさと教育」「キャリア教育」を一体として取り組む必要性が生まれてきた。

### ○ 地域の実態から

門川町では、「一人ひとりが主役の町づくりを推進する教育の充実」という目標を掲げ、「明日の門川町を担う優れた人材の育成」を図ることを目指している。これを実現するために、門川町教育委員会では、教育重点施策として「ふるさと門川に誇りと愛着をもち、未来を切り拓くたくましい子どもの育成」に取り組んでいる。これを受けて本研究所は、これまでに、「学力向上」「防災教育」「ふるさと教育」といった課題に取り組んできたが、その中で、教育活動全体を包括する「キャリア教育」を推進する必要性が生まれてきた。教職員を対象に行った「キャリア教育実態調査（平成25年3月）」では、約50%が「意識してキャリア教育に取り組むことができていない」と答えた。その理由として、時間的な余裕のなさや具体的内容の周知不足、教育計画立案の困難さなどが挙げられていた。このことから、キャリア教育の必要性や重要性の認識は高まりつつあるものの、学校現場では十分に取組んでいないことが推察される。したがって、キャリア教育が効果的に実施されるためには、キャリア教育の視点を明確にもつことや具体的な指導内容の普及、有効性の検証が必要である。

### ○ これまでの取組から

平成24年度より、喫緊の課題である「防災教育」と門川町の教育基本方針である「ふるさと門川に誇りと愛着をもつ子どもの育成」につながる「ふるさと教育」の2つの教育を一体化し、研究・実践に取り組んできた。この教育を、「かどがわ黒潮学習」と命名して、「命を守り、育てる教育」を実践する中で、「自ら考え、判断し、行動する児童生徒の育成」を目指す3か年の研究・実践計画をスタートさせた。これまで、防災教育・ふるさと教育の手引の作成や授業実践等を行ってきたが、この取組の中で、「命を守り、育てる」とは、単に防災や地域に関する知識を身に付けるだけでなく、「どのように生きるか」という、生き方に関わる問題でもあることが浮き彫りになった。一人一人の児童生徒が、将来にわたって自立した人間として、よりよく、たくましく生きていくことが「命を守り、育てる」ということであり、そのためにキャリア教育の視点をもつことが不可欠であると考えた。

### ○ 本年度の研究について

そこで、本年度は、「かどがわ黒潮学習」の研究に、門川町の教育重点施策である「未来を切り拓くたくましい子ども」の育成につながる「キャリア教育」の視点を加え、研究・実践の一層の充実・発展を図ることで、「自ら考え、判断し、行動する児童生徒の育成」を目指すこととした。具体的には、「かどがわ黒潮学習」を要としながら、他の教育活動との関連を図るなど、全教育活動の中で、門川の特性を生かした「キャリア教育」の研究・実践に取り組むこととした。この教育を「門川ゆめ創り学」と名付け、基本構想・全体指導計画を作成し、授業で検証することを通して「自ら考え、判断し、行動する児童生徒の育成」を目指していきたいと考え、本主題を設定した。

### Ⅲ 研究目標

命を守り、育てる「かどがわ黒潮学習」の研究成果を授業で検証するとともに、キャリア教育との関連を図る視点から研究を充実・発展させていくことにより、自ら考え、判断し、主体的に行動する児童生徒を育成する。

### Ⅳ 研究仮説

命を守り、育てる「かどがわ黒潮学習」を要として、教科などとの関連を図りながら、地域の特性を生かしたキャリア教育に取り組めば、自ら考え、判断し、主体的に行動する児童生徒を育成することができるであろう。

### Ⅴ 研究構想

#### 1 研究方法

##### (1) 防災教育 命を守る防災教育の研究

- 検証授業による研究の深化と啓発

##### (2) ふるさと教育 命を育てるふるさと教育の研究

- 検証授業による研究の深化と啓発

##### (3) キャリア教育 未来を切り拓くキャリア教育の研究

- 理論研究と全体指導計画の作成
- 検証授業による研究の深化と啓発

##### (4) 情報発信

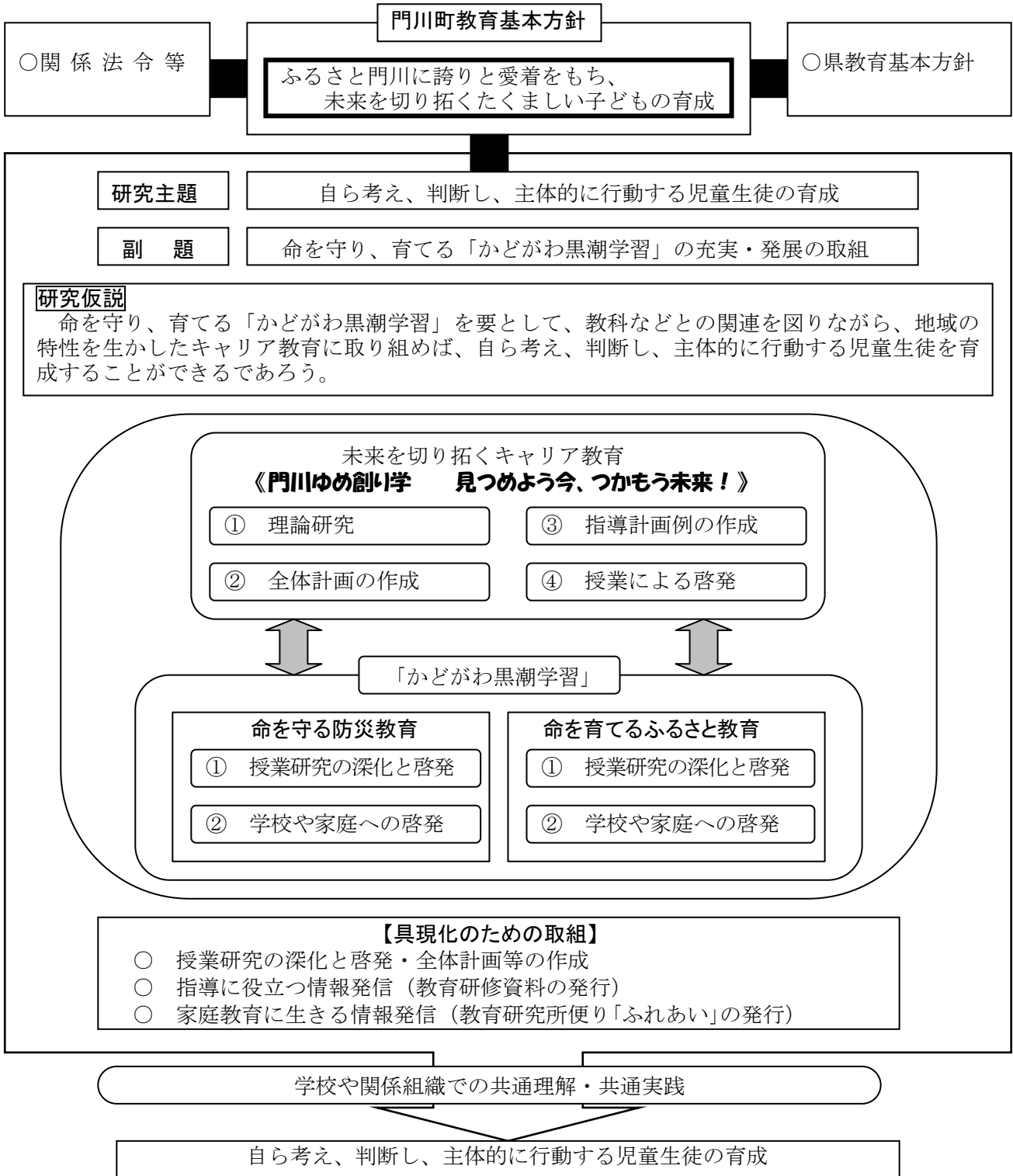
- 学習指導に役立つ情報発信
- 家庭教育に生きる情報発信

※ 教育研究所便り「ふれあい」、教育研修資料、ホームページを活用して情報を発信する。

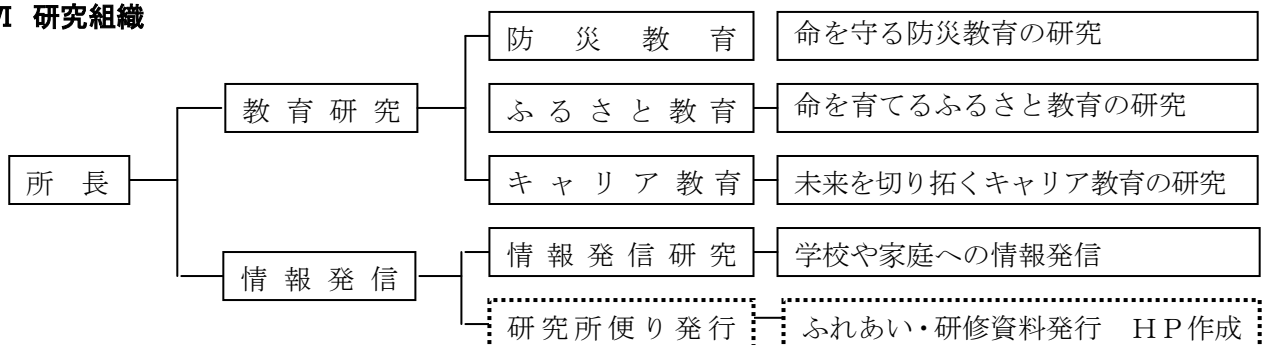
#### 2 研究計画

研究事項	24年度	25年度	26年度
防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実態調査</li> <li>○基本構想の検討</li> <li>○全体計画の作成</li> <li>○指導の手引きの作成</li> <li>○各教科等の年間指導計画の改訂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究</li> <li>○展開例の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※防災教育に関する諸計画の完成</li> </ul>
ふるさと教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふるさと教育情報収集</li> <li>○地域素材集の作成</li> <li>○地域素材マップ作成</li> <li>○指導過程作成</li> <li>○指導の手引き作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展開例の作成</li> <li>○授業研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ふるさと教育に関する諸計画の完成</li> </ul>
キャリア教育		<ul style="list-style-type: none"> <li>○実態調査</li> <li>○キャリア教育理論研究</li> <li>○全体計画作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※キャリア教育に関する諸計画の完成</li> </ul>

### 3 研究全体構想



### VI 研究組織



## Ⅶ 研究内容

### 1 キャリア教育の視点からの実態の見直し

#### (1) 定量的な実態把握 (資料1・2・3・4)

##### ア 学力調査等をもとに

全国学力調査等のデータをもと、児童生徒の学習、生活状況を検討、実態を探った結果、全体的に自己肯定感が低く、中学生では「将来の夢や目標をもつ」生徒の割合が低いことが明らかになった。

##### イ キャリア教育実態調査から

独自のキャリア教育アンケートを作成して、調査を実施した。小・中学校で共通して、人間関係に対する自己評価は高いが、自分に対する評価が低い傾向が見られ、自分に自信がもてていない状況が分かった。

#### (2) 定性的な実態把握

##### ア 日常的な実態をもとに

日常的に学習指導や生活指導を行う立場から、研究員相互で児童生徒の実態を出し合い、そのよさや課題について徹底的に検討を行った。その中で、共通して出されたことは、やはり自己肯定感の低さであった。また、主体性やコミュニケーション力等の課題も出された。

##### イ 保護者へのアンケートから

以前教育研究所が実施したアンケートから、保護者の思いとして、精神的に弱い、根気がない、礼儀を知らない、という実態があげられていた。

#### (3) 児童生徒の実態

##### ア 生かすべき点

- ① 素直であり、言われたことはできる。
- ② 友達同士仲良くできる。
- ③ 運動を好み、よく頑張っている。

素直で、仲良くできることを生かす必要がある。

##### イ 見直すべき点

- ① 自己肯定感が低く、自信がない。
- ② 粘り強さや根気が十分ではない。
- ③ 学力が十分ではなく、意欲が足りない。

自己肯定感が十分ではなく、自信がない、精神的な弱さ、を克服する必要がある。

### 2 地域の実態に応じたキャリア教育の創造 (資料5)

#### (1) 目指す児童生徒像 ( ③ )

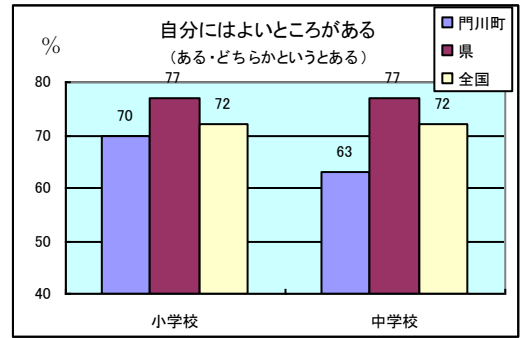
目指す児童生徒像を明確にするために、内部統合の視点として、

- ① 児童生徒の実態
- ② 教師や保護者の願い

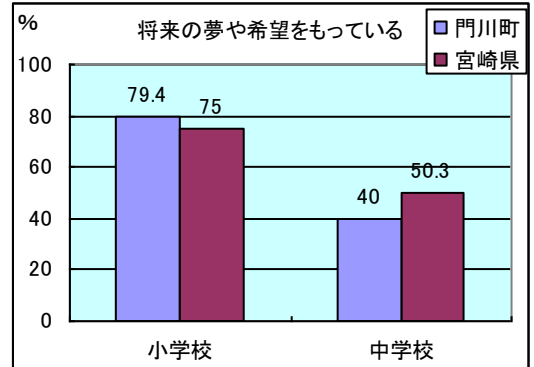
をもとに、また、外部環境の視点として、

- ① 社会の要請
- ② 県や町の教育方針

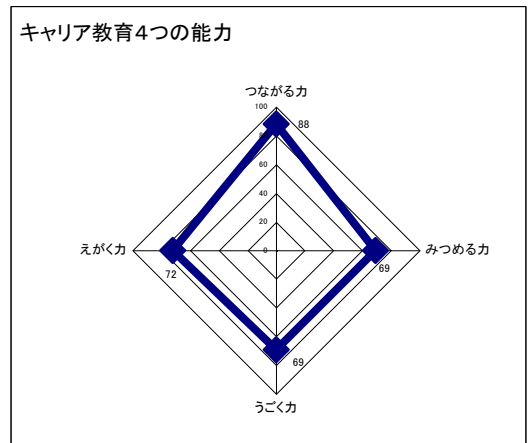
をもとに検討し、「自分に誇りをもち、未来を切り拓く子ども」という児童生徒像を設定した。



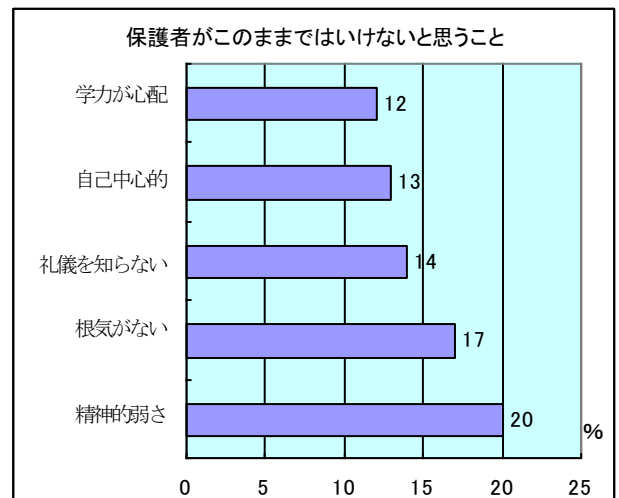
資料1 全国学力・学習状況調査(22年度)



資料2 全国学力・学習状況調査(22年度)



資料3 キャリア教育能力調査(25年度)



資料4 保護者の願い実態調査(22年度)

## (2) キャリア教育の名称(①)

町全体として意識してキャリア教育に取り組みするために、キャリア教育の名称を検討・決定した。シンボルとしての名称を決めることで一体となってキャリア教育に取り組む素地ができた。

## (3) キャリア教育のキーワード(②)

名称とともに、キャリア教育の方向性を明示し、努力するためのキーワードを設けた。「学習に目的が見出せない」という実態を踏まえ、キャリア教育を象徴する合言葉となることを願って検討・決定したものである。

## (4) 学年別目標(④)

小学校低学年から、中学校まで一貫した指導を行うために、各学年の発達段階をふまえて、具体的なキャリア教育学年目標を設定した。

小学校では、身近なことを中心にして積極性を育成することを重視し、低学年では身の回りのことへの興味・関心を高める、中学年では周囲との協力や役割の自覚、高学年では集団の中での役割と自己肯定感の育成を目標とした。中学校では、小学校の基礎の上に、将来を見つめて今を努力し、学び続けることを目標にした。

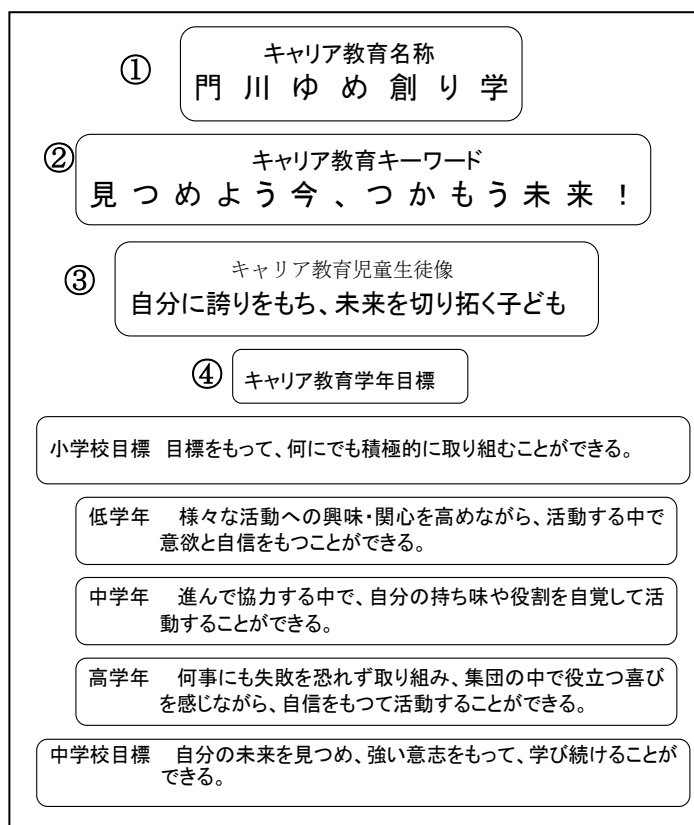
## (5) 基礎的・汎用的能力の育成(資料6)

基礎的・汎用的能力とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度である。

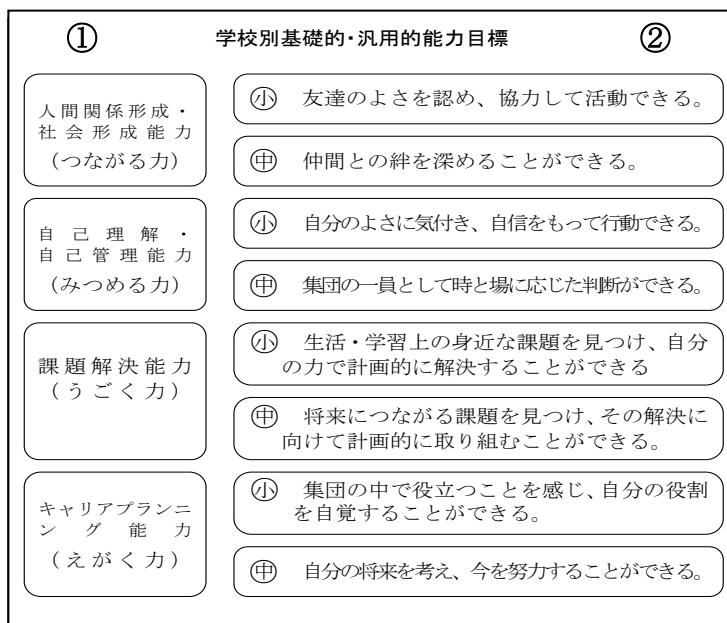
具体的な内容については、「仕事に就くこと」に焦点を当てて、実際の行動として表れるということから、資料6にあるように4つの能力が示されている。「宮崎県キャリア教育ガイドライン」

この4能力を、それぞれ「つながる力」「みつめる力」「うごく力」「えがく力」と命名して、より親しみやすく、理解しやすくする工夫をした。(①)

目標設定にあたっては、4能力に対応させながら、小学校では身近な友達や集団との関係に視点をおいて、中学校では地域に貢献することや将来の職業を意識することに視点をおいて、育成すべき能力目標を設定し、9年間の義務教育の中で、発達段階に応じて目標達成を目指すこととした。(②)



資料5 キャリア教育名称・キーワード・目標

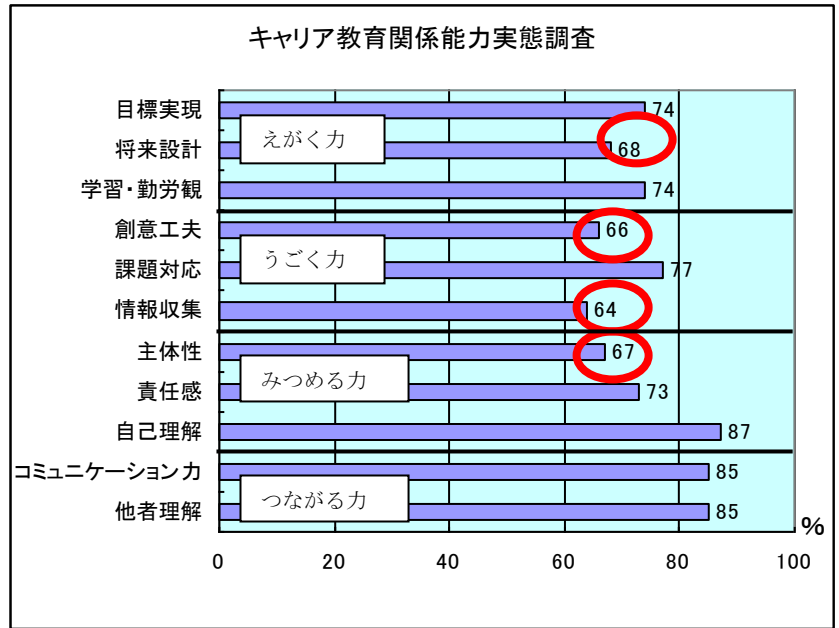


資料6 基礎的・汎用的能力目標

(6) キャリア教育の実態調査 (資料7)

基礎的・汎用的能力に関わる児童生徒の実態を調査するために、小学校低学年・中学年・高学年、中学校別のアンケートを作成した。質問項目は、10～14項目で、4能力それぞれに該当する具体的な質問を設定した。実際の調査にあたっては、小学校は研究員が担当する学級、中学校は全生徒を対象として実施した。

結果は、小・中学校の発達の差は見られたが、全体として、主体性、創意工夫、将来設計等がやや低い結果であった。



資料7 キャリア教育アンケート例(中学1・2・3年)

(7) 全体計画の作成 (資料8)

ア 門川町キャリア教育全体計画

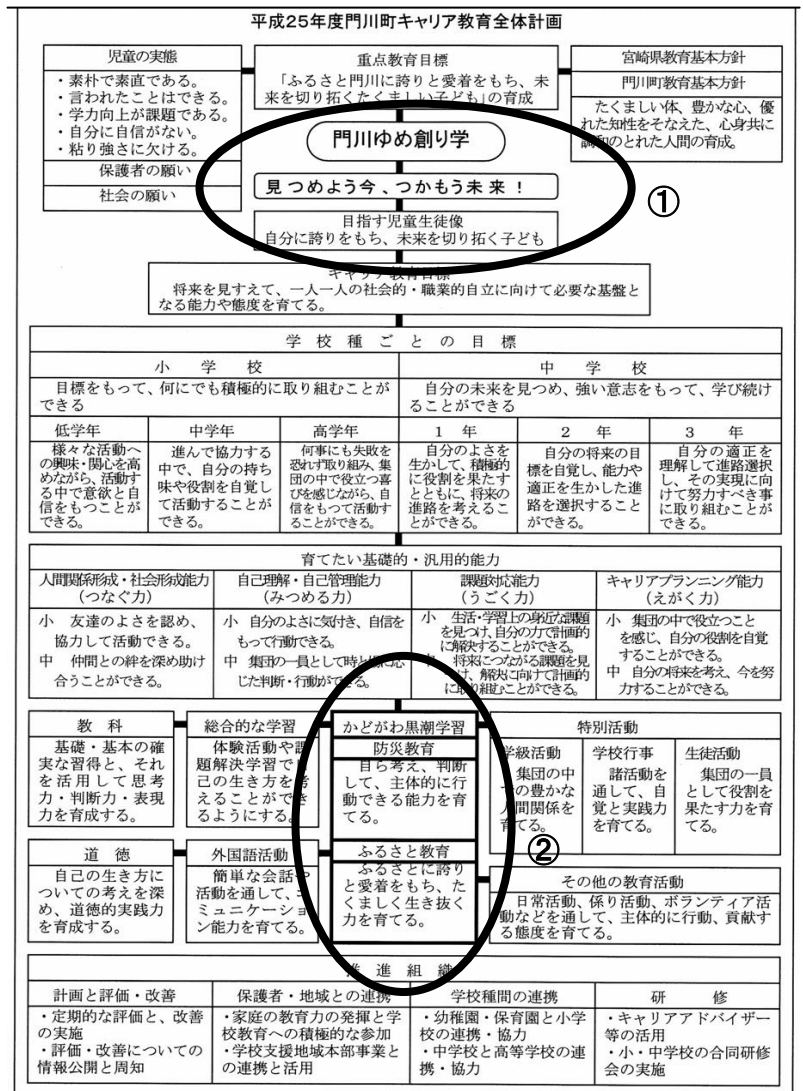
全体計画の作成では、徹底的に協議・検討した児童生徒の実態を踏まえ、内部統合の視点や外部環境の視点を取り入れながら、児童生徒像を設定した。( ① )

また、キャリア教育を象徴する「門川ゆめ創り学」という名称を設けるとともに「見つめよう今、つかもう未来!」のキーワードを決め、各学校が一体となって取り組むことができるようにした。

また、具体的な内容では、「かどがわ黒潮学習」を中心に位置付け、各教科等とも関連を図るように工夫した。( ② )

イ 小・中学校キャリア教育全体計画

「門川町キャリア教育全体計画」を基本として、各学校の全体計画作成のための研修を計画し、夏季休業中に実施した。この取組を通して、各学校では、本年度中の全体計画作成に取り組んでいる。



資料8 キャリア教育全体計画

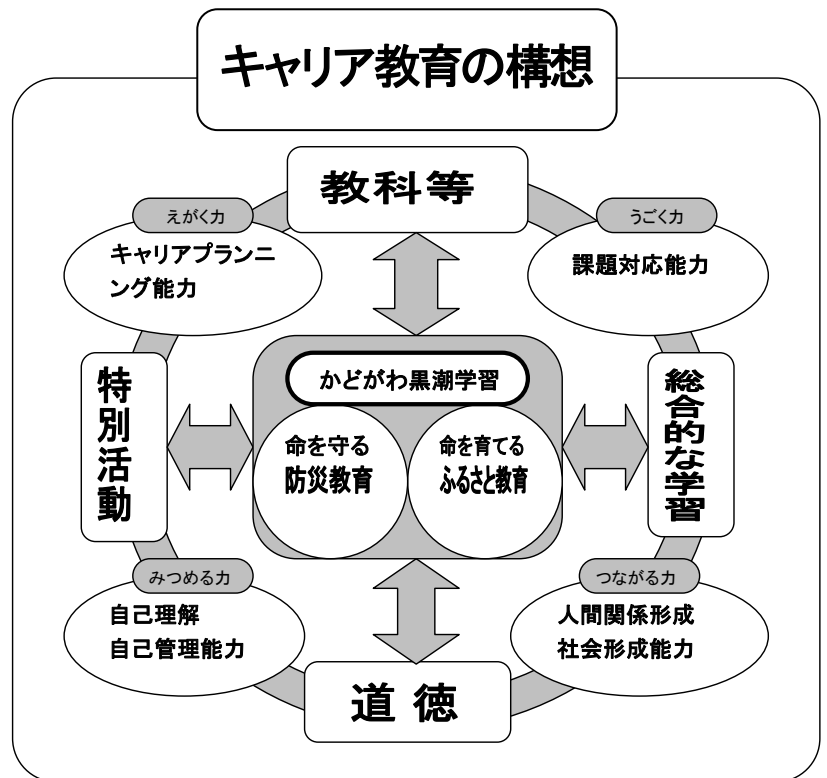
### 3 授業研究・実践

#### (1) 「かどがわ黒潮学習」を要とする キャリア教育の構想（資料9）

昨年度の研究「かどがわ黒潮学習」の防災教育・ふるさと教育を要として、キャリア教育の研究に取り組むことにした。

「かどがわ黒潮学習」は、地域の特性を生かした学習であり、キャリア教育の視点を生かすことができると考えた。

この学習では、地域と地域に生きる人に焦点を当て、題材や学習方法、体験活動などに地域の特性を生かしたものとなるように計画した。また、教科等の他の教育活動ともつなぎながら目標に迫るようにした。



資料9 キャリア教育構想図

#### (2) キャリア教育の視点を生かす工夫

##### ア 学習内容を洗い出し、つなぎ、補う工夫

これまでの計画の中から、育成すべき能力に関連する学習活動を洗い出し、各教科等とつなぎ、不足する内容を補うなどして、ひとまとまりの学習計画を作成する。

##### イ 学び合い・課題解決学習等の指導方法の工夫

能力育成につながる、話し合い活動や協同学習等の指導方法を工夫する。

##### ウ 体験的な活動の工夫

体験すること自体が主な目的にならないように、目標を達成するための体験的な活動を工夫する。

##### エ 学習意欲を育てる工夫

学習意欲を育てる指導や支援を工夫し、意欲をもって持続的に努力する学習習慣を育成する。

#### (3) 指導案の作成（資料10）

「ねらい」は、防災教育・ふるさと教育それぞれのねらいとともに、キャリア教育の視点を生かすようにした。（①②）また、他の教育活動との関連（③）や評価の観点（④）を示すようにした。指導過程は、「つかむ」「調べる」「まとめる」の3段階を基本とした。（⑤）

第〇学年 かどがわ黒潮学習指導案			
題 材 名		実施期日 年 月 日 校時	
ね ら い	①		
キャリア教育との関連	②		
他教育との関連	③		
評価の観点	④		
	主な学習活動	指導上の留意点（関連）	キャリア教育の視点
つかむ	⑤		
調べる			
まとめる			

資料10 キャリア教育指導案例



#### (4) ふるさと教育を要とするキャリア教育の実践

##### ア 授業の概要（資料11）

門川高校と連携して、「ホタル再生プロジェクト」に取り組んだ。生徒は1学期から幼虫を育て、2学期にはその幼虫を近くの川に放流する。そこで、学習課題を「今いるホタルを新しい命へつなぐためにはどうしたらよいか」と設定し、KJ法を使った班活動を中心に学習を進めた。

##### イ キャリア教育の視点

キャリア教育のアンケートで、「課題対応能力」「人間関係形成・社会形成能力」が低いことがわかった。そこで、自ら課題を見つけることや話し合い活動でお互いの意見を尊重し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標に授業を展開した。また、中・高連携や地域の素材を活用することで、自分のふるさとの将来を考え、地域の自然を守ることに貢献するということにもつなぐことができた。

##### ウ 授業の成果

○ 生徒たちの話し合いの中で、課題発見に至ることができ、翌日の水質調査に向けて課題解決への意識のつながりができた。

○ 総合的な学習の時間を活用した

ことで全教職員が生徒に関わることができ、生徒は様々な考えにふれることができた。

○ KJ法で自分の意見を付箋に書き、集約、話し合いを行うことで、普段積極的に発言できない生徒も、自分の意見が取り上げられ、自己肯定感を感じる事ができた。

このような学習活動の中で、生徒はコミュニケーション能力を高め、「人間関係形成・社会形成能力」の育成につながった。

##### エ 授業の課題

○ 教師が一方的に教えるのではなく、今回の授業のように、生徒自らが考えることができるような学習内容や課題を設定することが大切であることが確認できた。

○ 単なる体験活動に終わらず、そこから生徒の思考が生まれるような事後指導が大切であることが分かった。

○ 授業の中で、初めてKJ法を取り入れた話し合い活動を行ったが、生徒が主体的に考えたり、課題を追求できたりする学習活動を考えて、演習を重ねることが大切であると実感した。

ふるさと教育	題材名	西門川ホタル再生プロジェクト															
ねらい	ふるさとの自然を守るために、自分がどう貢献できるかを考える。																
キャリア教育に関わるねらい	<table border="1"> <tr> <td>5月 全校生徒 校外学習(乙島探検)</td> <td>10月 1年理科 水溶液の性質</td> <td>1月 3年理科 人間と環境</td> </tr> <tr> <td>乙島新聞づくり</td> <td>ホタルの育成</td> <td>9月～ 2年国語 新春子どもの声を聞く会作文</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8月 全校生徒 水質調査・清掃活動</td> <td></td> </tr> </table>		5月 全校生徒 校外学習(乙島探検)	10月 1年理科 水溶液の性質	1月 3年理科 人間と環境	乙島新聞づくり	ホタルの育成	9月～ 2年国語 新春子どもの声を聞く会作文		8月 全校生徒 水質調査・清掃活動							
5月 全校生徒 校外学習(乙島探検)	10月 1年理科 水溶液の性質	1月 3年理科 人間と環境															
乙島新聞づくり	ホタルの育成	9月～ 2年国語 新春子どもの声を聞く会作文															
	8月 全校生徒 水質調査・清掃活動																
事前指導	<table border="1"> <tr> <td>7月3日(水)集会活動</td> <td>全校生徒にホタルの育成についてオリエンテーションを行う。</td> </tr> <tr> <td>7月5日(金)総合の時間</td> <td>高校の先生と生徒を迎え、ホタルの飼育について話を聞く。</td> </tr> </table>		7月3日(水)集会活動	全校生徒にホタルの育成についてオリエンテーションを行う。	7月5日(金)総合の時間	高校の先生と生徒を迎え、ホタルの飼育について話を聞く。											
7月3日(水)集会活動	全校生徒にホタルの育成についてオリエンテーションを行う。																
7月5日(金)総合の時間	高校の先生と生徒を迎え、ホタルの飼育について話を聞く。																
指導過程	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">導 入</td> <td>1 門川高校との学習活動をVTRで振り返り、今日の学習課題をつかむ。 2 (課題) ホタルの幼虫が育ち、新しい命につなぐにはどうすればよいのだろうか。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 ホタルの飼育感想を話し合う。 4 ホタルがすむ環境について話し合う。(KJ法) ・個人で考える ・グループで意見を出し合う ・意見をまとめる (つなぐ力を育てる)★</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">展 開</td> <td>5 川の環境を調べる方法を考える。 ・水質調査 ・ゴミ調査等 (うごく力を育てる)★ 6 調べたことを発表する。 ・カードを黒板に貼る</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ま と め</td> <td>7 水生生物を観察する。 ・調査法を確認する 8 次時の学習への予想を立てる。 ・ワークシートに記入する</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		導 入	1 門川高校との学習活動をVTRで振り返り、今日の学習課題をつかむ。 2 (課題) ホタルの幼虫が育ち、新しい命につなぐにはどうすればよいのだろうか。			3 ホタルの飼育感想を話し合う。 4 ホタルがすむ環境について話し合う。(KJ法) ・個人で考える ・グループで意見を出し合う ・意見をまとめる (つなぐ力を育てる)★			展 開	5 川の環境を調べる方法を考える。 ・水質調査 ・ゴミ調査等 (うごく力を育てる)★ 6 調べたことを発表する。 ・カードを黒板に貼る			ま と め	7 水生生物を観察する。 ・調査法を確認する 8 次時の学習への予想を立てる。 ・ワークシートに記入する		
導 入	1 門川高校との学習活動をVTRで振り返り、今日の学習課題をつかむ。 2 (課題) ホタルの幼虫が育ち、新しい命につなぐにはどうすればよいのだろうか。																
	3 ホタルの飼育感想を話し合う。 4 ホタルがすむ環境について話し合う。(KJ法) ・個人で考える ・グループで意見を出し合う ・意見をまとめる (つなぐ力を育てる)★																
展 開	5 川の環境を調べる方法を考える。 ・水質調査 ・ゴミ調査等 (うごく力を育てる)★ 6 調べたことを発表する。 ・カードを黒板に貼る																
	ま と め	7 水生生物を観察する。 ・調査法を確認する 8 次時の学習への予想を立てる。 ・ワークシートに記入する															

資料11 第1回研究授業

(5) 防災教育を要とするキャリア教育（資料12）

ア 授業の概要

「命を守る登下校避難マップをつくろう」という題材を2時間で計画して、授業に取り組んだ。1時間目は一人調べ、2時間目は登校班ごとにマップ作成を行った。当日は、保護者も参加し、最後にポスターセッション形式で発表を行った。

イ キャリア教育の視点

本時のねらいを「登下校中の避難場所を話し合いながら考えることができる」（人間関係形成・社会形成能力）、「避難場所の安全について課題をもって考えることができる」（課題対応能力）とした。

マップの作成では、一人調べで気づいたことや考えたことを友達と熱心に意見を交換しながら、高いところに黄色、広いところに青色、危険なところに赤色のシールを貼るなど、模造紙にまとめる姿が見られた。また発表では、作成したマップを使って、避難場所を選んだ理由や危険な理由などを、自分の言葉で説明することができていた。

ウ 授業の成果

- お互いの意見を積極的に伝え合うことができた。
- 今後マップを活用したいという意欲が育ってきた。
- 地域について、課題意識をもって考えることができた。

エ 授業の課題

- 地域の人材を積極的に活用する必要がある。
- 意識の変容の評価が重要である。
- 他教科等との関連、防災教育の系統を考えた指導が必要である。

防災教育	題材名 命を守る登下校避難マップをつくろう
キャリア教育の視点でのつながり	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(社会) くらしを守る (6月)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(社会) 火事からくらしを守る (6月)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(防災) 「地震・津波のこわさと登下校時の避難方法と避難場所」 (5月)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(防災) 作成した登下校避難マップの再確認・検討 (11月)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(防災) 保護者や地域にマップを紹介 (12月)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(学校行事) 避難訓練 (4月)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(防災) 登下校避難マップづくり (10月)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(学校の行事) 親子防災学習 (10月)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">町避難訓練 (5月)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(学校行事) 避難訓練 (1月)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(学校行事) 抜き打ち避難訓練 (2月)</div> </div>	
<p>評価</p> <p>○友達と協力し、お互いを認め合いながら、マップ作りに取り組んでいる。</p> <p>○自分の住んでいる地域の状況や様子を把握し、課題をもってマップづくりに取り組んでいる。</p>	
導 入	<p>1 本時の課題をつかむ (課題)</p> <p style="text-align: center;">命を守る登下校避難マップをつくろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="font-size: small;">5月の学習の継続を確認する      学習の進め方を確認する</p>
展	<p>2 地区ごとに事前調査をもとにしてマップづくりを行う。</p> <p>○1人調べをもとにしてシールを貼る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>高いところー黄色 広いところー青色 危険なところー赤色</p> </div> <p>○写真のコメントを貼る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="font-size: small;">事前調査を確認する      グループで話し合う</p>
開	<p>3 保護者と一緒にマップづくりを行う。</p> <p>○避難場所を確認 ○危険箇所を確認</p> <p>4 ポスターセッションを行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="font-size: small;">シールを貼る      写真やコメントを入れる</p>
ま と め	<p>5 避難マップの活用について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内掲示</li> <li>・学習発表</li> </ul> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">   </div> <p style="font-size: small;">発表する 1グループ      発表する 2グループ</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>※ 親子防災学習の後に一緒に歩いて下校し、授業の中で決めた登下校時の避難場所を確認して帰宅する。</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center;">  </div> <p style="font-size: small; text-align: center;">親子で学ぶ「親子防災学習」</p>	

資料12 第2回研究授業

## Ⅷ 成果と課題

### 1 研究の成果

- キャリア教育に関する理論研究を行うとともに、作成した研修資料をもとに、各学校で研究員による研修を実施するなど、キャリア教育に関する研修の充実に資することができた。
- キャリア教育のアンケートを作成・実施して、町全体のキャリア教育全体計画を作成し、今後のキャリア教育の在り方や方向性を示すことができた。
- キャリア教育の全体計画のモデルを作成して各学校に提供したことにより、全ての学校でキャリア教育の全体計画を作成することができた。
- 「かどがわ黒潮学習」(防災教育・ふるさと教育)を要とするキャリア教育の在り方について、研究授業を通して、「地域を生かす」「人を生かす」という方向性を明確にすることができた。
- 各学校の担当者を交えて、キャリア教育の視点に立った防災教育・ふるさと教育の推進の在り方について2回の研究授業を行い、成果や課題を共有することができた。
- 広報「ふれあい」や教育研修資料の作成・配付により、キャリア教育についての理解・啓発を図ることができた。

### 2 今後の課題

- 「かどがわ黒潮学習」(防災教育・ふるさと教育)を要とするキャリア教育の実践を積み重ねることで、今後はキャリア教育の視点を加えた各教科等の年間指導計画の改訂につなげる必要がある。
- キャリア教育の視点に立った教育活動の在り方については、研究授業を通して、今後も具体的かつ実践的に研究を深める必要がある。
- 町教育委員会が推進する「学校支援地域本部事業」に関わる関係機関との連携を図りながら、キャリア教育についての理解を一層深め、学校と地域が一体となって推進する体制を整備していく。
- 「かどがわ黒潮学習」(防災教育・ふるさと教育)を確実に推進するために、総合的な学習の時間の年間指導計画を見直すなど、授業時間を確保するための工夫が必要である。

### ○ 参考文献

キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書	文部科学省
キャリア教育をデザインする	文部科学省
キャリア教育の更なる充実のために	文部科学省
宮崎県キャリア教育ガイドライン	宮崎県教育委員会
かどがわ黒潮学習の手引き	門川町教育研究所

### ○ 研究同人

職名	氏名	所属	職名	氏名	所属
所長	新原とも子	教育長	研究員	白田優	門川小学校
事務局	岩切康郎	教育総務課	研究員	堀俊太郎	草川小学校
研究指導員	山本逸馬	教育総務課	研究員	江藤建輔	五十鈴小学校
研究主任	山本和則	西門川小学校	研究員	藤本なつみ	西門川中学校
研究副主任	有藪克広	門川中学校			